

2007年11月22日

中田 宏 横浜市長殿

地域政党 ネットワーク横浜 代表 杉山典子

上郷開発予定地緑地の全面保全を求めます

横浜市は、2007年に「横浜市水と緑の基本計画」を基本政策として、緑被率31%の維持、向上に努めるとしました。これら中田市政の環境保全への取り組みは、高く市民に評価されています。

しかし11月13日、上郷開発計画の都市計画提案が事業者から提出され、横浜市に残された数少ない貴重な動植物が生息する緑地が開発の危機に瀕しています。すでに土地の60%を所有した事業者がすすめる大規模開発を横浜市が認めるならば、「都市計画提案制度」を使って、市街化調整区域を市街化区域に変更して開発を可能にする事例第1号を横浜市から発信することになり、横浜市の環境保全に対する姿勢が大きく問われることとなります。

横浜市は、現在「市街化調整区域のあり方検討」の答申を受けて、市街化調整区域のゾーンわけに着手しようとしています。その最中の上郷地域の開発は、いわば「かけこみ大規模開発」とも見られます。上郷開発を許可するかどうかは、横浜市の今後の緑を守る姿勢の本気度を問う試金石と言えるでしょう。

全国的にも、また世界的にも、市街化調整区域を開発する一方、市街化区域が空洞化し、インフラ整備にかかる財政負担を招いていることが問題視されています。大都市横浜においても、これ以上の市街化の拡散を招くのではなく、無作為な土地利用をすすめるのではなく、環境、交通、住環境整備と一体化したコンパクトな街づくり政策に転換すべきときを迎えています。

ネットワーク横浜は、上郷の緑地保全を要望する多くの市民の声を重く受け止め、一旦失ってしまえば決して取り返せない貴重な動植物を守り、上郷開発を阻止するために、横浜市として万全の策を尽くすことを強く要望いたします。